

動物と福祉のつながりあい 実践ヒント集



人と動物の
共生社会へ向けた
つながりから予防へ

もくじ

動物と福祉分野のつながりあいヒント集

- 1 どこでも出張手術
- 2 動物保護の枠を超えて
- 3 動物愛護の活動から発信
- 4 保健所と市町村の取り組み
- 5 災害が起きた時、ペットはどうする？
- 6 子どものころから動物と仲良く
- 7 多頭飼育の実践事例から考える
- 8 飼い主の認知症発症・ご逝去後のペットのこと
- 9 各地でチームTAGの集まりを！

動物と福祉のマメ知識

動物と福祉の連携で目指したいこと

非難から支援へ

発刊にあたり

このヒント集は、動物分野と福祉分野がつながり合うために、具体的な助けになるような内容を実践者たちが紹介しています。専門の方ばかりではなく、一般の市民の皆さまにとっても、仕事や暮らしに活かすことができ、楽しく見ていただけるように、心がけました。どうぞ手に取ってご覧ください。

どこでも出張手術

猫を増やさず、さいごまで飼い続けるために

しんけん動物病院

動物移動手術車で長野県内各地を回り、飼い主のいない猫（野良猫）の不妊去勢手術を行う病院です。

Webサイト



- 地域で過剰繁殖した猫の不妊去勢手術を実施
- 助成金を利用し比較的安価に手術することが可能
- 1日に20頭余りの手術対応ができる
- 現地の手術対応はボランティアや行政などの協力が必要
- 地域の猫問題について啓発講演会も実施

ポイント

- 抜糸の必要がない（溶ける糸を使用）
- 傷口が小さいので体の負担が少ない
- 手術頭数が多いので現地捕獲の手間が少ない
- 手術をした猫は発情行動をしないので静かになる

事例コラム 餌やり高齢者を地域で見守り

「近所の高齢者が猫に餌をあげていて、猫が増えて糞害に困っている」と、自治会長から相談がありました。猫は不妊去勢手術を行わないと数が増えること、その地域にすでに多くの猫がいることを説明すると、自治会長は自ら地域の状況を確認し、自治会で住民回覧を実施。市町村の補助金を活用して地域猫活動を進め、その後も地域で高齢者と猫を見守っていくことになりました。この活動は、ボランティアの協力も得ながら、住民回覧、捕獲、手術などを自治会主導で進められました。手術後の自治会の住民回覧には、「18匹の猫に手術を実施したが、放置していた場合、計算上は直後に24匹の子猫が生まれる可能性があった」と記され、手術の重要性が住民に周知されました。

豆知識 地域猫活動の基本となる考え方

TNRとは

猫の繁殖を抑え、自然に猫の数を減らしていく取り組み。



地域猫の耳カット

不妊去勢手術が済んだことを伝える耳先のV字カットで、地域で見守られている印。



Message しんけん動物病院からのメッセージ

猫は生後6か月から発情して妊娠可能です。メス1匹から4、5匹産まれ、あっという間に10頭を超えることもしばしばです。早めに手術を受けることで生息場所の糞尿などの環境負荷や管理負担の軽減に努めてください。また地域によっては助成金制度がない所もあります。事前に確認して、行政（役所、保健所）、社協、地域ボランティアに相談しましょう。



動物保護の枠を超えて

NPO法人 一匹でも犬・ねこを救う会

地域猫活動、譲渡会、講習会や啓発活動のほか、多頭飼育崩壊や飼い主の様々な理由からの保護依頼や相談案件に取り組んでいます。



悲しむ命ゼロに向け活動中

- 行政連携し譲渡会開催
- 地域猫活動
- 相談対応
- 啓発活動・講習会開催



ポイント

- ひとつの部署で対応することは不可能
- できないことを言い合うのではなく、それぞれができることを持ち寄る

豆知識 地域猫活動って？

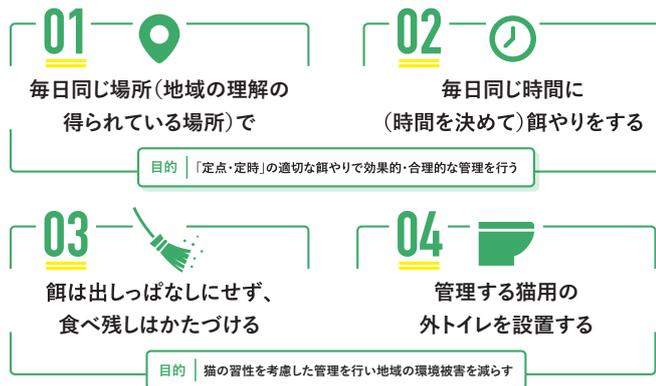
TNRで繁殖を 방지、地域住民がマナーを守り(4箇条)お世話・管理することで、環境被害を減らす取り組み。官民協働が望ましい。

定点定時の餌やり／外トイレの設置
／近隣への周知・広報

これまでに多くの多頭飼育崩壊をはじめとする案件に取り組んでいます。宅内の清掃や敷地内のゴミ撤去など、これまではボランティア団体のみで対応することがほとんどでしたが、『重層的支援体制整備事業』を活用し、行政が主導して対応したケースがありました。

自治会・住民が行う 地域猫の飼育管理

餌やりのマナー4箇条《必ず守ること》



事例コラム 問題を抱えた人たち

「気がつけば多頭飼育崩壊に陥ってしまっていた…」近年、解決が難しい事例が増えています。発見された時にはすでに崩壊が進み、猫の数も急増。完全室内飼いのケースでは、ごみが堆積し不衛生な生活環境となり、猫は近親交配が進むことで病気が多く、ネグレクト状態に陥ってしまいます。飼育者も社会から孤立し、貧困・失業・高齢・障がいなど、複数の困難を抱えていることが少なくありません。福祉機関と連携しながら飼育者と信頼関係を築き、福祉面での支援を行うとともに、動物部局が不妊去勢手術を支援し、生活環境の改善を進めていく。地域の猫の数が多い場合は、自治会の協力を得て地域猫活動を並行して実施する。その後の猫の見守りを地域と福祉が継続して行うことで、再発防止につながります。

Message 団体・個人からのメッセージ

今後の日本は超高齢化社会になることが予想されています。基本的には飼い主が最後まで責任をもつことが大原則です。ライフイベントなどの『もしも』の時にペットたちが路頭に迷うことないよう、あらかじめ考えておいてほしい。動物愛護団体は常に保護動物でいっぱい状態で、パンク寸前のところまで来ています。そこが崩壊したらどうするのでしょうか。



動物愛護の活動から発信

人と犬・猫が住みよい環境づくり目指して

ハッピーテール

2000年に駒ヶ根市の犬28匹置き去り事件がきっかけで発足。人と動物との共生のため、独自で案件に対応するとともに、行政や福祉と連携し、上伊那・諏訪地域で活動を続けています。

Webサイト



活動実績(2024年度)

- TNRサポート:855匹
取り壊し団地で繁殖制限手術34匹(全て耳カット)
- 譲渡会開催:年間約35回
- 保護数:猫73匹、犬1匹、ウサギ6匹
- 譲渡数:猫32匹、ウサギ6匹
- 動物を飼う上で必要となる知識の啓蒙

ポイント

- 猫が増えた・飼えないという相談が多い...
- 困った際は早く相談することで道が開ける
- 繁殖制限、新しい飼い主を探すには時間が必要
- 繁殖制限、多頭飼育の相談に日常的に取り組む

事例コラム あっという間に増える

「すべては2年前の1匹のメス猫から始まったのです…」と、肩を落として話す餌やりの高齢者。こうした光景を、これまでに何度も見てきました。近所の苦情を受けてSOSが寄せられる頃には、猫が30匹以上に増え、当の本人が地域から孤立してしまっていることも少なくありません。行政では、「不妊去勢手術を行い繁殖を防ぐこと」「決められた場所・時間での餌やり及びトイレ管理」などの対応策を示すとともに、自治会など地域の理解を得るよう働きかけます。特に、餌やりをしている人が高齢者の場合、一人の力だけで問題を解決することは難しいです。

猫の不妊去勢手術やその後の管理を支える地域の協力的体制を築くことが、環境被害を減らすための近道です。



豆知識 1匹の♀メス猫が数代出産を重ねると...

	1代目	2代目	3代目	4代目
出産数	♀メス1匹	♀メス1匹 出産	♀メス4匹 出産	♀メス7匹 出産
仔猫の数		♀メス3匹 ♂オス2匹 計5匹	4×(♀メス3匹 ♂オス2匹) 計20匹	7×(♀メス3匹 ♂オス2匹) 計35匹
全体の数	1匹	6匹	26匹	61匹

妊娠期間2か月で生まれる



生後2か月には走り回る



生後4~6か月で発情次の出産へ



Message ハッピーテールからのメッセージ

猫の不妊去勢手術は、人と猫だけでなく地域の幸せにつながっていると言っても過言ではありません。高齢や生活困窮、病などで多頭飼育崩壊に陥っている相談者に寄り添えるボランティアでありたいと思います。



保健所と市町村の取り組み

人と動物のよりよい共生社会へ向けて

長野県上田保健福祉事務所

地域保健所として人と動物の共生を目指した施策の提言、住民からの苦情やその相談に対応しながら、適正な飼い方への指導や人と動物のより良い関係づくりへ助言を行っています。

社会問題になっている人と猫の問題に、地域猫活動や多機関で連携をしながら取り組んでいます。それぞれ社会的孤立など福祉的な背景はありますが、不妊去勢手術を行わずに猫が増えるがままになっていることが一番の問題です。不妊去勢手術を含めて、犬や猫の習性、飼い方やマナー、起こりうる病気や介護など終生飼育の基本を知っていただくよう啓発を行っています。



フォーラムの様子

ポイント

- 人と動物のより良い関係には問題の本質を知ること
- 隠れた問題が地域の猫問題と多頭飼育崩壊として後から現れる
- どちらも猫が増えることが原因
- 動物に対する理解を深めることで予防につなげることができる

豆知識 人と動物の問題と対策

問題 地域の猫問題 対策 地域猫活動

上田保健所では市町村と協力し、地域の環境被害を減らすために地域猫活動を進めています。

(上田市・長和町:2018～、東御市・長和町:2021～)

地域の猫問題を解決していくためには、たくさんの方にこの取り組みを知っていただき、活動を継続していくことが大切です。地域猫活動は県内外の多くの地域で実施されており、着実な成果があがっています。

問題 多頭飼育崩壊 対策 多機関連携

この問題は、福祉は飼い主の支援を、動物関係機関は飼育環境の改善を担当するなど、複数の機関が協力して取り組む必要があります。

上田保健所では、福祉機関や自治会などからの相談を受け、早期の情報共有と多機関連携により、不妊去勢手術や生活環境の改善を進めています。関係者会議で各機関が役割を持ち寄り、予防と解決に向けて協力しています。

事例コラム 多頭飼育崩壊と地域猫活動

地域猫活動を進める中で「猫が多い」という相談が寄せられ、地域に出向くと、その背景に多頭飼育者の存在が見つかることがあります。

地域に猫が多いと、

- ・外の猫を家に入れて多頭飼育になる
- ・多頭飼育者の家から外へ猫が増える



といった双方向の問題が生じ、多頭飼育崩壊の予備軍になりやすくなります。実際の現場では、自治会が地域猫活動を始めると同時に、多頭飼育者のフォローにも取り組み、地域ぐるみで人と猫がともに暮らせる環境づくりを進めた例もあります。

Message 長野県上田保健福祉事務所からのメッセージ

動物は人の生活に潤いと安らぎを与えるかけがえのない存在です。しかし近年、その命に対する責任が十分に果たされていないと感じられる事案が増えています。動物の命を守るためには、飼う前も、飼ってからも、そして将来のことまでしっかり考えて行動することが必要です。また、避妊去勢手術を行うことは、病気の予防やストレスの軽減、望まない繁殖の防止につながります。多頭飼育崩壊や地域の猫の問題を防ぐためには、まずは1匹からの不妊去勢手術と早めの相談が重要です。



災害が起きた時、ペットはどうする？

長野県動物愛護センター
ハローアニマル

動物について学び、動物とのふれあいを通じて命の大切さや相手を思いやる心を育み、人にも動物にもやさしい社会をつくることをめざす施設です。

Webサイト



災害があった時、ペットをどうするか考えたことはありますか？
もしもの時のために、普段から災害への備えをしておきましょう。

ポイント

- 動物用避難袋を準備しましょう
- 所有者明示をしましょう
- 普段からしつけをしっかり行いましょう
- ペットの健康管理をしましょう
- 事前の確認(避難訓練)をしましょう



動物用避難袋

ペットフード、水、常備薬、療法食、おやつ、食器、除菌スプレー、ビニール袋、ペット用ウェットシート、猫砂、ペットシート、首輪、リード(引き綱)、キャリーバッグ、クレート、ケージ、新聞紙、タオル、おもちゃ、ペットの写真、ペットの防災手帳・健康手帳など



所有者明示

犬は鑑札、狂犬病予防注射済票を付けることはもちろん、犬にも他の動物にも迷子札やマイクロチップを装着しましょう。



しつけ

災害時にすぐ一緒に避難するためには、「名前を呼んだら来る」「クレート等に入ることを嫌がらない」「むやみに鳴かない」などのトレーニングをしておくことが大切です。



ペットの健康管理

狂犬病予防注射、感染症のワクチン接種、寄生虫の予防・駆除などペットの健康管理を忘れずに行いましょう。

事前の確認(避難訓練)

災害時の避難場所や動物を連れていける場所、預けられる場所などを事前に確認しましょう。実際の災害時を想定して「避難訓練」もしてみよう。

Message ハローアニマルからのメッセージ

災害はいつ起こるか分かりません。

いざという時、迷わずペットと同行避難ができるように日ごろから「災害への備え」をしましょう！



子どものころから動物と仲良く

子どもができる活動を普及しよう

東御市社会福祉協議会
まいさぼ東御

東御市社会福祉協議会は、東御市から委託を受け生活に困窮している方の相談と支援を行っています。組織全体として、相談を地域で解決や改善することを積極的に取り組んでいます。

Webサイト



相談者の中には、多頭飼育が暮らしに大きな影響を与えている事例があります。その中には子どもがいる世帯もあります。子どもたちが自分でできる「動物に関する活動」を考えてみました。(イラスト:こども新聞参照)

7ひきのねこから…



●うまれた7ひきのねこは、いえにいたねこや、そとにいるねこ子どもをうみました

ポイント

- 「猫の飼い方セミにゃあ」(学習の機会)

ハローアニマルや多機関と協働して開き、動物を飼っている相談者や相談者の世帯の親子が直接学べる、小さな学習会の機会を提供しました。



セミナーの内容

- 「サマーチャレンジボランティア」

市内の小中学生向けに「動物と人との『つながり』を学ぼう!!」を開催しました。



サマーチャレンジボランティアの一コマ

こども新聞「動物と人と仲良くするために子どもができること」



こども新聞を作ってみる



動物の飼い方を知る・学ぶ



募金活動に協力!



学んだ動物の飼い方を実践!



Message 東御市社協・まいさぼ東御からのメッセージ

誰も飼い始めたときと状況が変わることがあり得ること、予想外の出来事が起きることなど、人間と動物の双方の生活にエラーが起きたり、飼えなくなることがあります。そのようなときのサポートを含めて、子どものころから「人と動物との関係」を考える機会を作っていきたいです。「人と動物の関係」を通じて、子どもの心を育む活動をしてみませんか。



多頭飼育の実践事例から考える

チームで課題を解決していこう！

まいさぼ大町

「まいさぼ」は、県内26か所にある自立相談支援機関で、様々なお困りごとを一緒に解決するお手伝いをしています。

Webサイト



当初は夫の借金に関する相談でしたが、その後、猫の不妊去勢手術にお金がかかり手術ができないとの相談も受けました。2匹の猫の手術をしたいと、しんけん動物病院にお願いし、手術をしてもらいましたが、周辺にいるオス猫は未手術のままになっており、餌をあげている猫の一斉手術が必要になりました。ボランティア、行政を巻き込み、一斉に捕獲、手術、公益財団法人どうぶつ基金で手術を行う手配などチームで対応しました。

ポイント

- 最初の訴えが、動物とは限らない
- それぞれに得意なことを発揮する
- 円陣を組むように課題に取り組む



豆知識 多頭飼育が起きてしまったら？

多頭飼育の始まりは…1匹のメス猫から

猫は1年に3回出産することもあり、頭数が一気に増えてしまいます。

崩壊へ向かう分岐点は…最初の出産

「2年前の1匹のメス猫から始まった」と相談が入った時には既に30匹以上に。地域から孤立し、どうしたらよいか悩む方は少なくありません。

解決の第一歩は…早めの相談

悩んでいるのは、あなただけではありません。

多頭飼育は全国で課題となっており、環境省もガイドラインを示しています。

予防で大切なのは…不妊去勢手術

手術をしていないことが、問題を大きくする最大の要因です。犬・猫を飼い始めたら、オスもメスもまず**不妊去勢手術**を。

誰でも構いません。仕事で関わる方、地域の方、お友達、動物の専門家だけでなく、「気づいた人」みんなが声をかけ、早めの相談につなげることが、多頭飼育崩壊を防ぐ一番の近道です。



事例コラム 生活環境の改善

多頭飼育崩壊では、ゴミ屋敷化が同時に起こることが多く、清掃やゴミの処分が大きな課題です。動物部局は不妊去勢手術や飼い方の助言だけでなく、福祉部局と連携し、生活環境の改善を支援する場合があります。しかし、対応には限界があり、どのように進めるかは関係者にとっても大きな悩みとなっています。清掃にボランティアや支援制度を活用することもあります。現場には想像を超える負荷がかかります。多頭飼育崩壊に陥らないためには、不妊去勢手術などの早期の予防対応が何より重要です。

Message まいさぼ大町からのメッセージ

今回は、ご本人から猫の不妊去勢手術についての相談がありましたが、動物を2頭以上飼育していたら、注意が必要だと思います。福祉の仕事は、家に訪問する機会も多いので、発見したら、動物部局の担当者に相談しておくことも大切です。支援員が一人で悩むことのないよう、様々な方とつながりチームで支援できるよう日頃から関係づくりをしていきましょう。



飼い主の認知症発症・ご逝去後のペットのこと 人と動物が共に豊かに生ききる為に

行政書士
宮澤優一事務所

後見、遺言書、家族信託等を活用した「老いじたく」を専門業務とした福祉系法務事務所です。

(代表：行政書士・社会福祉士・家族信託専門士 宮澤優一)

Webサイト



地域では、多頭飼育崩壊や猫の地域問題が増えています。背景には高齢化や孤立など福祉課題があり、ペットは多くの方にとって「家族」でもあります。支援現場では、本人の生活と動物の福祉を分けて考えにくい場面もあります。本稿では、今後地域で取り組むためのヒントとなればとの願いを込めて、私の後見実務の経験をもとに、動物と福祉の連携が生む可能性と課題を共有します。

事例紹介 猫9頭と暮らす認知症高齢者を、地域でどう支えたか

ある認知症高齢者が、ゴミ屋敷化した自宅に住み着いた地域猫9頭と同居していました。

本人の成年後見人に選任された私は、本人の「最期まで自宅で猫と暮らしたい」という強い希望を受け、次のような連携を行い、本人と地域猫9頭との同居を支援しました。

行った支援 (代表的なものを抜粋)

- ・裁判所の許可のもと、本人の財産で自宅のゴミを完全撤去、清掃、修繕
- ・ペットショップの協力を得て、飼育環境を整備
- ・近隣住民の協力を得て、トイレ掃除等、本人と猫が同居するための環境を維持するための体制づくり
- ・出産した子猫20匹ほどは、保護団体と協働し、捕獲、里親譲渡
- ・親猫は獣医師の協力で、TNR(捕獲・不妊去勢・元いた場所に戻す)を実施

こうした活動により、本人は亡くなる直前まで望みどおり自宅で暮らし続け、猫との生活を維持できました。

残った課題

- ・もし、本人が長期入院・施設入所となった場合、成年後見人として猫の飼育のための活動やそのための費用支出を続けられたかどうか分かりません。
- ・本人のご逝去後は、成年後見人の権限が無くなるため、成年後見人という立場で関与し続けることができません。
- ・本事例では、私の自己責任と負担で、遺された猫の保護を試みましたが、全頭を保護するには限界があり、里親に出せた猫と出せなかった猫が生まれました。誰かの「善意」に頼る活動は、必ず限界が生じ、継続は困難と思います。

本事例は、本人にある程度の資力があり、関係者の理解と具体的な活動があったために、ご逝去の直前までは支えることができた「幸運なケース」であり、同じ方法が全ての家庭で実現できるわけではありません。だからこそ、早期に予防の仕組みづくりをしておくことが不可欠です。



Message 行政書士・宮澤優一事務所からのメッセージ

動物との暮らしは、人の尊厳や生活意欲を支える大きな力があります。しかし、飼い主の高齢化・孤立・病状の変化により、本人も動物も共倒れになりうる脆弱性があります。そこで、飼い主が元気なうちに家族信託を活用し、地域の多種多様な資源が連携することで、認知症発症や逝去後も飼い主の財産をペットのために使える事前準備の仕組みづくりを模索しています。



各地でチームTAGの集まりを！ 実践の連携から生まれた活動

任意グループ チームTAG*

*Think、Alignment、Goingの頭文字をとって命名

動物や福祉の専門職やボランティアが、日常的にオンラインやSNSを活用し、情報交換・学び合い・発信をする「協議体・実施体」です。

2022年に東信地区で起きた多頭飼育の事例に関わる多分野の関係者による会議を契機に、「会議の場以外にも多頭飼育の課題について双方に情報交換や学び合いが欲しい!」という熱意から発足。メンバーは全県に拡がり、時には他県からも参加。任意グループ「チームTAG」という名称で現在まで30回以上のオンライン会議を開催しています。2023年と2024年に、セミナーを開催し、企画・運営を行いました。



メンバーによるロゴ
会議の「次第」で愛用

ポイント

- 動物と福祉の両分野から参加
- メンバーの困り事を解決する役割
- 会議で深めた内容を研修会やセミナーで発信
- 相互のやりとりから新しい知恵や方策を生み出す可能性

事例コラム チームTAG発足に至る事例

家族と親族からのSOSが、まいさぼに寄せられました。「猫が増えて家の中が片付かなくなり、手に負えない」という相談でした。まず、福祉担当者と動物支援者などの関係者、そして本人が集まり、現地確認と今後の方針について話し合いを行いました。動物部局では、不妊去勢手術の実施や飼育環境の改善、飼い方教室の開催などを通じて、正しい猫の飼い方を支援。一方、福祉部局では生活プランの作成や、飼育を続けるうえでの生活面の支援を担当しました。この事例をきっかけに、チームTAGの活動が始動することとなりました。



ある日のチームTAG会議の話し合いメニュー

1. 自己紹介・近況報告
2. 情報交換
 - ・対応事例のその後など
3. 事例検討
 - ・事例について相談や助言



研究研修会の様子

Message チームTAGからのメッセージ

チームTAGのオンライン会議で話し合われた内容を、各参加者が持ち帰り自分の実践に活かしてきました。各地で「動物と福祉がつながる具体的な取り組み」が進むことを願います。もしかしたら、動物×福祉×○○(○○は新しい分野)があってもいいかもしれません!



動物と福祉のマメ知識

不妊去勢手術を行う時の助成金

県内の市町村で不妊去勢手術の助成制度があるのは77市町村のうち35市町村にのぼります。飼い主のいない猫に対する助成制度が35市町村にあり、飼い猫に対する制度があるのは22市町村です。また助成額は3,000円から16,500円と市町村によって開きがあり、一般に飼い猫に対する助成額は低く設定されています。(環境省「動物愛護管理行政事務提要(令和7年度版)」)
ほかにも公益財団法人どうぶつ基金などが行っている民間の助成金制度があります。

動物を飼う責任を考える

第一に『終生飼育』 命を守れるのは飼い主さんだけです

- 家族の一員として愛情をそそぎ
- 適切な環境で社会的ルールを守り飼育し
- 不妊去勢手術をして健康管理を行い病気の予防を行う

安易な気持ちでペットを迎えず、犬や猫の生態、病気の知識を身につけてください。



片付けが必要なお宅のサポート

- 市町村社会福祉協議会・地域包括支援センター(高齢者の総合相談窓口)などに相談をしてみましょう。生活上の困りごとをききながら、片付けをする方法を一緒に考えてくれる可能性があります。
- 民間の業者に頼めない経済状況のお宅は、困りごとの状況を確認しながら、片付けのボランティアチームを結成するなど、サポートできる可能性があります。

単身者が入院・入所した時のペットの預かり先

- 民間の預かりや訪問サービスがあります。
- 市町村の「有償の生活サポートサービス」に相談してみましょう。



ご自身で、お金の管理が難しい人が居る

- 市町村社会福祉協議会で実施している「金銭管理のサービス」「日常生活自立支援事業」の利用を相談してみましょう。
- 市町村等が開所している「成年後見制度の支援センター」に、「成年後見制度」の利用を相談してみましょう。

生活に困窮している人が居る

- 「生活就労支援センターまいさぼ[※]」に相談する。
※長野県では、生活困窮者自立支援機関を「まいさぼ」と愛称を統一しています。詳しくは、市町村に相談してください。

こんなことで困っていませんか？



福祉が大切にしているチーム支援って？



例えば「多頭飼育をしている本人は、経済的に苦しい状態で病気を抱えていて介護が必要な状態になっている、近隣住民から多頭飼育による公衆衛生の苦情が来ている」という事例があったとします。これは一つの機関や専門職では解決が難しい事態です。

そこで、複数の課題に対して、それぞれの専門機関に協力を要請します。そして複数の専門機関が「支援チーム」を形成して、その事例に協力し合って対応します。

動物と福祉の連携で目指したいこと



福祉関係者が、相談者などの多頭飼育や動物の飼育への困難またはその可能性を察知したら、早めに市町村の担当部署・保健所に相談してください。動物関係者が、動物の飼育の課題で関わったときに飼い主の暮らしや命にも課題を発見したら、早めに市町村の福祉部署に相談してください。そして、人と動物の両方の命や幸せを目指すには、福祉部門と動物部門の専門機関が集まり検討して支援することが不可欠です。

実際の支援の事例を解決するために集まり、福祉と動物の専門機関が知恵を出し合い、できることをお互いに協力し合って行うことが「連携」です。ある程度、その事例が落ち着くまで情報を共有したり見守るところまでが「連携」です。そして、そこには福祉と動物だけでなく、他の専門機関の協力も必要になるかもしれません。

どちらかに押し付け合うのではなく、お互いの「のりしろ」を少しだけ重ねることで、助かる命や暮らしがあります。一つの機関だけが負担せず、皆で分かち合って対応をした先には、素敵な信頼関係が生まれることでしょう。



おわりに 非難から支援へ

長野県社会福祉協議会 佐藤尚治

「最初は1匹だったんです」これは多頭飼育の相談の現場で、よく耳にする言葉です。最初から「たくさん飼おう」と思って始まったケースは、実はほとんどありません。また「誰に、いつ、相談したらよいかわからなかった」という声も多くあります。相談できない状況としては2つあるのではないのでしょうか。ひとつは、飼育状況の悪化から、周囲に知られるのを恐れたり、責められることを気にして、他人との接触を避ける心理的な状態に陥り「助けて」と言えない場合。ふたつめは、「相談窓口の不明な場合」です。どこに相談したら良いかわからず事態が深刻化してから発覚するケースが後を絶ちません。そして、その結果、相談が入った時には「近隣トラブルが起きたあと」「環境悪化が目に見えてから」「飼い主さん自身が限界を迎えた段階」ということが少なくありません。

この「実践ヒント集」は「誰が悪いのか」を探すためのものではありません。

どうすれば、もっと早い段階で支援につながられたのか。
支援者として住民として、どこに関わる余地があったのか。

この点を、猫の多頭飼育を中心に、この冊子を見る皆さんと一緒に考える時間にしたいと思い、全員で知恵を出し合ってきました。「ペット飼育問題」の対応に「正解、不正解」はありません。これからたくさんの方に「相談」して、さらに一歩すすめていきたいと思います。

本事例集の執筆者

- 全体監修 藤井美和／佐藤もも子
- ヒント1 しんけん動物病院 松木信賢
- ヒント2 NPO法人一匹でも犬・ねこを救う会 松井ルミ／青木理恵
- ヒント3 ハッピーテール 東野律子／福元麻子
- ヒント4 長野県上田保健福祉事務所 藤井美和
- ヒント5 長野県動物愛護センター・ハローアニマル 岡野美鈴
- ヒント6 東御市社会福祉協議会・まいさぼ東御 佐藤もも子
- ヒント7 大町市社会福祉協議会・まいさぼ大町 菅沢久江
- ヒント8 行政書士宮澤優一事務所 宮澤優一
- ヒント9 チームTAG
- おわりに 長野県社会福祉協議会 佐藤尚治
- イラスト 川澄

